

SHION

第28号
2025年5月

目次

01. ご挨拶

02. アステラス製薬「FOCUS Next」園田院長の記事の紹介

04. リハビリテーション部 新たな取り組みについて
05. 「足底板療法・ウィメンズ外来」

06. 外来診察担当医師の変更のご案内
公式SNSははじめました

～ご挨拶～

福岡志恩病院 リハビリテーション部 部長 野崎 壮

のざき たくま



広報誌をご覧いただき、ありがとうございます。

2023年4月よりリハビリテーション部部長に就任させていただきました。この場をお借りしてご挨拶をさせていただきます。開設前に「小郡に新しく整形外科病院ができる。そこで患者様に信頼されるリハビリテーション部をイチから作っていかないか」と声をかけていただいた所から私の理学療法士としてのセカンドステージが始まりました。そんな2011年5月の開設から14年を迎えます。開設当初から在籍しているスタッフが少なくなっていくのは寂しい感じもしますが、同じ志を持った新しいスタッフを迎えながら働けることは非常に頼もしい限りです。

我々、リハビリテーション部では、手術後や保存療法において、より快適な状態で社会・職業復帰、スポーツ復帰していただけるように各種治療だけでなく、日常生活における姿勢・動作での注意点、自宅でのトレーニング方法の指導、入院中の患者様には自宅訪問なども行っています。

14年前に志した「患者様に信頼され続けるリハビリテーション部」に向けて、より安全で最適なリハビリテーションを提供できるように、スキル・サービスのレベルを向上させ、皆様に「志恩に来て良かった」「（困っている知人などに）あなたも志恩に行ってみらんね」と言ってもらえるようなリハビリテーション部を創っていきます。これからもよろしくお願いいたします。

アステラス製薬が発行している「FOCUS Next」に園田院長の記事が掲載されました。

FOCUS Next

完結型医療・地域医療連携・人材育成
3本柱で高度な整形外科医療を提供



園田 康男 先生 医療法人オアシス 福岡志恩病院 理事・院長（福岡県小郡市）

医療法人オアシス 福岡志恩病院は整形外科疾患の患者さんに高度な医療を提供することを目的に、福岡県小郡市で2011年に開院しました。高レベルの医療技術とリハビリテーション技術の提供を目標とし、手術やリハビリテーションのブラッシュアップなどを図りながら、その成果を地域に還元しています。

最新設備の導入で高レベルな手術と リハビリテーションを提供

急性期から自宅復帰まで一貫して診る

福岡志恩病院の大きな特徴は、外来から入院・手術、リハビリテーションまでを一貫して行えることです。理事・院長の園田康男先生は、「当院は大多数の患者さんの手術から外来リハビリテーションまで施行でき、経過を詳細に把握しながら治療を完結できることが強みとなっています」と話します。

同院は最新設備を導入して高レベルの手術を実施しています。また、保存的加療にも力を入れていることが患者さんの高い自宅復帰率につながっているといえます。

現在、常勤医9人と非常勤医3人の体制で診療に当たっており、肩関節、股関節、膝関節、脊椎などそれぞれの専門医によって年間約800例の手術が行われています。人工関節関連の手術件数も年々増加していることから、2023年には最新の人工関節手術支援ロボットを導入しました。これにより、同ロボットが評価計測を補助し、執刀医の骨切りや人工関節の設置位置をガイドすることで、より正確に精度の高い安定した手術を可能にしています。

一方、リハビリテーション部では脚や腕の動作をサポートする装着型サイボグを導入し、運動機能の回復を支援しています。「筋肉を動かそうとするとときに発生する微弱な生体信号を感知して腕や脚の動きをサポートするもので、リハビリテーション訓練の負担軽減やモチベーションの向上にも役立ちます。手術では筋肉の減少を治療することはできません。自宅復帰をめざしていただくためにはリハビリテーションが大きな役割を果たすため、完結型医療を目標とする当院にとってリハビリテーション機能の充実は欠かせません」と園田先生は強調します。

継続しやすい骨粗鬆症治療の取り組み

脊椎外科やスポーツ整形外科の専門外来を有する同院ですが、病院全体で注力しているのが骨粗鬆症治療です。

「超高齢社会の中で避けては通れないのが骨粗鬆症に対する適切な治療です。当院では各種の変性疾患をはじめ幅広い整形外科疾患に対して手術とリハビリテーションで自宅復帰をめざしていただきますが、高齢の患者さんの場合は骨粗鬆症を見逃してしまうと健康寿命にも悪影響を及ぼします。そこで、早期に介入しながら薬物療法だけでなく食事療法や運動療法なども実施し、痛みを緩和しながら元気に歩ける体づくりをサポートしています」

現在500人ほどの骨粗鬆症患者に対応しています。できるだけ受診回数を減らして対応するほか、紙媒体を活用して視覚的にも分かりやすい栄養指導を心掛けるなど、治療への負担を軽減し継続率を高めるための取り組みを進めています。近年では地域住民の意識も高まり、骨粗鬆症の検査に訪れる患者さんも増えているといえます。園田先生は、「そのため、骨粗鬆症リエゾンサービス*チームをつくり、



患者さんの意思に従った動作をサポートする装着型サイボグ。繰り返すことで正しい動作が脳神経系に定着し、外した後の動作も改善が期待できます。（園田康男先生提供）

地域住民がいち早く骨粗鬆症に対する適切な治療にアクセスでき、適切な治療を継続できるようサポートしていきたいと考えています」と話します。

顔の見える地域医療連携を推進

九州各地の大学病院から講師を招く

同院では地元の医師会はもちろん、近隣の医師会とも地域医療連携が行われていますが、その背景には立地の歴史的特性があります。

「当院の最寄り駅の一つは三国が丘という名前で、かつては筑前国（筑紫野市原田）・筑後国（小郡市）・肥前国（佐賀県三養基郡基山町）という3つの国の国境にあり、交通の要衝として栄えていました。現在でも小郡市、筑紫野市、佐賀県をはじめ遠方からも患者さんが受診されています。そのため、医師会の枠に収まらない地域医療連携が不可欠なのです」と園田先生は地域の特徴を話します。

医師会の会合で顔を合わせる機会のない、他の地域の医師との医療連携が必要な地域性があるものの、顔の見える地域医療連携が行われていなければスムーズな紹介・逆紹介は困難です。そこで、同院では“地域で繋ぐ整形外科疾患マネジメント”と題した独自の研修会を年に1回実施。地域の医師に同院の提供する医療を知ってもらうことで、より適切な医療を適切なタイミングで提供できるよう、医療機関同士の交流を深めています。

例えば、2022年には“高齢者の手術と骨粗鬆症”というテーマで同院の理学療法士が発表し、“地域で繋ぐ骨粗鬆症治療”というテーマで医師が話した後にディスカッションが行われました。整形外科はもちろん、内科医など他科の医師も多く参加し、骨粗鬆症治療の重要性について広く伝える機会になったそうです。

「2024年の研修会では、当院の理学療法士が人工膝関節置換術の術前リハビリテーションについて発表しました。大学病院からも講師を招き、活発なディスカッションが行われました。研修会では九州地方各地の大学病院から講師を招いているのも大きな特徴で、幅広いテーマを取り上げることで知識を深める機会になっています」

学会参加のための補助制度も充実

院内研修会には人材育成という狙いもあります。同院では医師やメディカルスタッフに対し最新の知識や情報のアップデートをはじめ、多職種との意見交換、ネットワークづくりの機会を得ることなどを目的として学会への参加を推奨しており、学会参加にかかる費用について年に4回まで利用可能な補助制度も設けています。

「院内研修会は多くのスタッフにとって学会発表のための訓練の場にもなっています。最初のうちは負担に感じるスタッフもいるようですが、場数を踏んでいるうちにやりがいを感じるようになり、自身の役割に対するモチベーションアップにもつながっているようです」

ほかにも、病院全体を丸一日休診とし、薬剤部や医事管理課など全部署が演題を持ち寄り、日々の業務の課題や成果を発表する院内研究会も開催しています。単科で小回りが利くというメリットを十分に発揮するための情報共有と横のつながりの強化の場となっています。

手術からリハビリテーションまで一貫して行える医療体制と独自の地域医療連携、そして人材育成の場づくりという3本柱で地域に貢献する同院。園田先生は、「スタッフによる個人差の出ない均一なリハビリテーションを実現するため、独自の学びのカリキュラムを構築していきたいですね。患者さんの自宅復帰といつまでも健康に歩ける体づくりのため、さまざまな取り組みを進めていきます」と今後の展望を語ります。



手術支援ロボットを用いることで人工関節の設置位置などがガイドされ、より正確で精度の高い低侵襲な手術が可能になります。（園田康男先生提供）

POINT

- ・手術から外来リハビリテーションまで施行し、経過を詳細に把握しながら治療を完結できる。
- ・立地の歴史的特性を踏まえた顔の見える地域医療連携の強化を図るため、地域の医師を招いた研修会を実施している。
- ・補助制度を設けて医師やメディカルスタッフに学会参加を推奨し、ハイレベルな人材の育成を図っている。



当院理念である「最先端、高度なレベルのリハビリテーションを提供する」ことを念頭に、日々更新される論文や、研修会などを通して新たな知見、情報を取得しています。

整形領域の各分野の専門知識を有する理学療法士が在籍しており、安心して診療を受けられるよう準備しています。

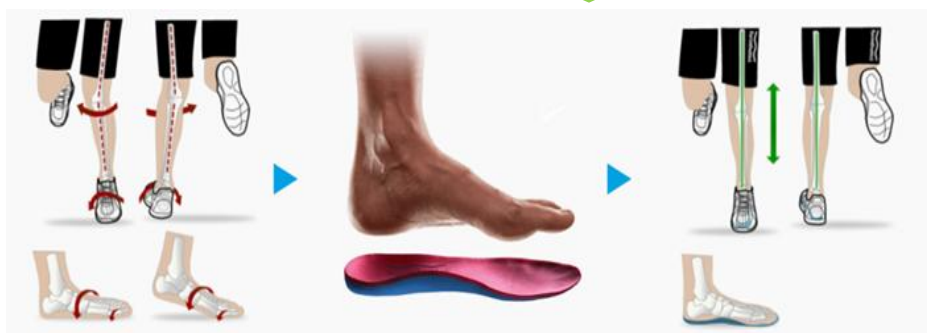
4月1日から新たな取り組みとして、足底板療法、ウィメンズ領域の理学療法についてご紹介します。

新たな取り組み(1) 足底板(インソール)療法



足底板(インソール)療法とは？

足部アライメント(骨配列)を正常に矯正することで、足、膝、腰、姿勢の悩みを解決できる可能性を高めていくことができます。また、その場で片足立ちなどのテストを行い、効果を実感していただきます。



Before インソール使用後 After

当院のインソールには「保険診療内」と「保険診療外」の2種類があります。

福岡志恩病院 理学療法士

フォームソティックス・メディカル取り扱い認定者 坂田 真幸

保険診療内の場合

- 特定の足の問題や症状に対して、医師の診断と処方箋が必要です。
- 症状や治療計画に基づいて、特定の条件を満たす場合に保険が適用されます。

保険診療外の場合

- 医師の診断と処方箋は不要です。より幅広い種類のインソールが選べます。
- 歩きやすさ、障害予防、運動予防、運動パフォーマンスなど、個々のニーズや快適さを重視した選択が可能です。

フォームソティックス・メディカルにご興味ある方、または詳しい情報をご希望の方は、リハビリ受付までお気軽にお問い合わせください。

□お問い合わせ先

リハビリテーション部 坂田 真幸(さかた まさゆき)

保険診療内・外どちらに該当するかご説明いたします。
お気軽にご相談ください！

新たな取り組み(2) ウィメンズ外来



この度、当院では整形外科疾患に付随した女性特有のお悩みに寄り添う“ウィメンズ”ヘルスの理学療法外来＝ウィメンズ“外来”を開設しました。女性特有のライフステージに応じた健康課題(妊娠・出産・更年期などに伴う身体変化や不調)と整形外科疾患の関連に着目し、専門的な理学療法を提供いたします。

どうしたら良いの？
この症状…

産前産後の腰痛や恥骨痛、膝痛や腱鞘炎

婦人科術後の二次的な関節可動域制限

まずは、お困りの症状(膝の痛み・腰の痛み・肩の痛みなど)の診療を行い、主治医のリハビリ処方のもと、担当の理学療法士が姿勢・動作の評価をもとに、一人ひとりに合わせた運動療法や私生活指導を行い、痛みの軽減や機能の向上をサポートいたします。女性の健康を支えるリハビリを通じて、より快適な毎日を送るお手伝いをさせていただきます。

ウィメンズ外来の流れ

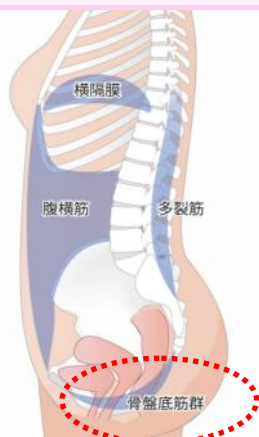
診療予約

診察・診断

リハビリ処方

お電話でご予約の際や来院後の問診時にまずはお気軽にご相談ください。

インナーユニットを構成する4つの筋肉



骨盤底筋とは？

さまざまな運動や動作を安定させるために必要な体幹筋(インナーユニット)の底面に骨盤底筋があります。骨盤底筋は、大腸・膀胱・子宮などが落ち込まないように支え、排尿や排便をコントロールする役割を持つ重要な筋肉です。立つ、歩くという基本的な動作はもちろん重たいものを持ち上げたり、くしゃみや咳をする際にお腹に力が入ります。この時に共同しているのが骨盤底筋です。しかし、出産や加齢、長時間のデスクワークにより衰えてしまいます。

骨盤底筋が衰えると…

尿漏れや腰痛につながる

検査方法について

骨盤底筋の検査は体表上から触診や超音波検査、動作の評価で行うことが可能です。動作に伴う痛みがある際は一度ご相談ください。



●外来診察担当医師の変更のご案内（2025年4月～）●

2025年4月1日より外来診察担当医師の診察曜日が一部変更となりました。

		月	火	水	木	金
午前	受付時間 (8:30～11:00)	黒木一	岡田	白澤	黒木一	岡田
		園田	白澤	園田	信藤	黒木綾
	診療時間 (9:00～12:00)	岡田	石谷	信藤	石谷	原田
		信藤	原田	黒木綾	香月	香月
午後	受付時間 (13:30～16:30)	黒木一	岡田	岡田	平田	黒木一
		岸川	白澤	園田	園田	信藤
	診療時間 (14:00～17:30)	石谷	石谷	香月	黒木綾	原田
		黒木綾			香月	香月

※休診日 土曜日 日曜日 祝日 予約受付時間 月曜～金曜日 8:30～17:30（休診日を除く）

予約専用フリーダイヤル 0120-23-0318



Instagram
@SHION_HOSPITAL2011



LINE
@577xnzpg



公式SNSはじめました

携帯カメラ機能より
QRコード読み取りできます。
ぜひチェック☑を！

外来休診、送迎バスの運行情報、志恩病院の日常を
配信します。ぜひフォローよろしくお願いいたします。

◆ 編集後記 ◆

この度、広報誌の編集長に就任しました放射線部の橋本です。編集長を務めることになり正直ドキドキが止まりません（笑）私はゴルフ、野球をするのが趣味でどちらも「一球入魂」を心がけてますが、広報誌も同じように「完璧な一撃」を目指して頑張ります！

当院では、患者様一人一人に寄り添った医療を提供していますが、広報誌でも皆様の役に立つ情報をしっかりとお届けできるように努めてまいります。これまでの広報誌には、大切にしてきた温かみや工夫がたくさん詰まっています。その良い部分を守りながら、より親しみやすく、気楽に手に取っていただけるような内容をお届けできればと思います。次号もぜひお楽しみに！

（放射線部 橋本 将季）

医療法人 オアシス

福岡志恩病院

SHION HOSPITAL

〒838-0101 福岡県小郡市美鈴が丘1丁目5番3

予約専用 0120-23-0318

代表電話 0942-23-0300

FAX 0942-23-0301

HP : <http://shion-hp.jp/>



こちらのQRコードより
HPへ飛べます▼▼▼



福岡志恩病院

検索